HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	北海学園―レスブリッジ大学教員交換プログラム V2（2）：レスブリッジでの講義
著者	上野，之江；UENO，Yukie；赤石，篤紀；AKAISHI，Atsunori
引用	北海学園大学学園論集(182)：67-106
発行日	2020-07-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

北海学園―レスブリッジ大学教員交換プログラム V2(2)

―― レスブリッジでの講義 ――

上　野　之　江
赤　石　篤　紀

目次

1．はじめに
2．レスブリッジ大学での講義：概要
3．2017 年度の講義―上野之江
4．2018 年度の講義―赤石篤紀
5．まとめ

1．はじめに

『北海学園―レスブリッジ大学教員交換プログラム』の第 2 編となる本稿では，レスブリッジ大学における交換教授の講義について紹介する。その目的は，第 1 篇で述べたように，北海学園大学から交換教授としてこのプログラムに参加を検討している人々に具体的な情報を提供することにある。

2．レスブリッジ大学での講義：概要

2.1　科目の位置付け

2.1.1　科目の位置付け，ノルマ

北海学園の交換教授の担当科目は，全学共通の Interdisciplinary Studies（学際研究）の「Japanese and Japanese Culture」として設定されているが，シリーズタイプの講義であり，内容とタイトルは変更可能である（University of Lethbridge Guidebook for Hokkai-Gakuen Visiting Professors 2019-2020, p3）。講義概要には科目の内容について「The Japanese world view; history, culture and society of Japan and the Western world」と記されている。北海学園の法人事務局からのプリントには，「講義は，日本の文化・歴史・政治・経済等のテーマの中から主要なテーマを決め行う」と書かれているが，具体的な内容は担当者に任されている。

また，2016 年に更新された「北海学園―レスブリッジ大学教員交換協定書」にも，講義内容には学際的研究に基づき日本語，日本の社会，生活と文化なども入れなければならないと記載されている。内容をどのような講義方法で行うか，どのような追加教材を入れるかは各交換教授に任

されている。英語で行うクラスで最大学生数は50名である。

This course was created as a “series” type of course so that the content and title could change each time it is offered. As required by the Exchange Agreement between Hokkai-Gakuen and The University of Lethbridge, the content must include Japanese conversation and Japanese life and culture. However, how this content is approached, and what additional materials are offered, are up to the individual professor. The contact hours indicate that there are three lecture hours each week, and zero other hours (e.g. tutorials, labs). The language of instruction for this course is English. The maximum number of students in this course will be 50.

(*University of Lethbridge Guidebook for Hokkai-Gakuen Visiting Professors 2019-2020,* p3)

2.1.2　学生の基本属性

2018年秋学期の受講者は38名で，人種構成としては白人系カナダ人が過半数を占めており，1/4程度がアジア系カナダ人である。

学年は1年生から4年生まで混在し，専攻分野もすべての学部にまたがっていた。日本語の科目を履修している者も5，6人いたが，日本語での挨拶やごく簡単な会話ができる程度であった。学生の中には卒業後に日本で英語指導助手として働くことを希望している者もいた。もちろん，履修学生の多くは，総じて，日本に対して好意的である。

2.2　講義準備および講義環境

2.2.1　シラバスの作成

札幌で年明けより，シラバスの作成を開始し，3月1日までに草案をインターナショナルセンターに提出しなければならない。講義のタイトルが決まった後での変更は認められない。その後，4月より赴任するレスブリッジ大学の交換教員に確認してもらい，6月上旬に，インターナショナルセンターの担当職員に送付する。それが大学の講義概要に掲載されることになる。着任後の打ち合わせによって最終的な内容を確定させ，これを初回講義時に学生に配布して，学生との契約事項として機能させる。

シラバスに記載すべき内容は，日本と概ね同じである。すなわち，シラバスには，①講義の目的と運営方法，②評価方法，③評価基準，④コーススケジュール，⑤履修上の注意点を記載する。2017年度と2018年度のシラバスを，末尾に掲載しているので，詳しくは，そちらを参照されたい。

講義開始時に配布したシラバスの変更は，基本的に認められていない。これはシラバスが学生と大学との当該科目の内容に関する契約として解され，実際の講義内容とシラバスの記載内容に

食い違いが生じると学生からのクレームが生じる可能性が高くなるためである。そのため，スケジュールとトピックスについては，滞りなく教授できるように，入念に計画しておく必要がある。

2.2.2　コーディネーター教員と通訳者

レスブリッジ大学からの交換教員（派遣年 4 月に札幌に赴任される交換教員）が，北海学園大学からの交換教員のコーディネーターとなり，教務面でのサポート役となる。U of L Guidebook では mentor と記載している。試験の英文チェックや成績評価の内容に対する助言，手に余る学生への対応など，サポートの範囲は多岐にわたる。実際に，どの程度のサポートが得られるかは，俗人的な要素が強いが，レスブリッジ大学からは面倒見のいい教員が派遣されているように見受けられる。

また，レスブリッジ大学に対する事前申請により，講義には，通訳者をつけることができる。このコースには，2015 年度から継続的に，Tomoko Greenshields さんがその職についている。講義内容の通訳を依頼する場合には，１週間前に，そのスクリプトを渡しておく必要がある。通訳者の業務は，講義とオフィスアワーへの帯同，講義通訳の準備を含めた週 8 時間の契約となっている。なお，パワーポイント資料や配布資料，試験問題の作成（いずれも英語での作成）は，交換教員が行わなければならない。

2.2.3　教室

講義に使用する教室は，年度によって異なるが，パソコン，スクリーン，プロジェクタ，スピーカーが備え付けられている。教室設置のパソコンは，交換教授個人の ID とパスワードでログインし，終了後はシャットダウンせず，サインアウトする（後続の講義での円滑な利用のため）。

VGA ケーブルと AV ケーブルもあるので，自身のパソコンを接続して，利用することもできる。教室の場所と機器の利用方法については，講義期間が始まるまでに，コーディネーターとなる教員に説明を聞いておくとよい。

教卓には，AV コントロールパネルと電話が置いてある。コントロールパネルはタッチパネルである。困った時は，学内の IT Solutions Centre に電話をかけると，すぐに職員が飛んできてトラブルを解消してくれる。IT Solutions Centre の内線番号は教卓上に表示されている。

2.2.4　研究室

交換教授の研究室は，University Hall という大学の中心的な建物にある。ただ，どの階層，どのブロックの研究室が割り当てられるかは，その時々の状況によって異なる。教室が近接している場合もあるし，教室まで 10 分ほどかかるような場合もある。

研究室は，４畳から 8 畳程度の広さ（どの研究室が割り当たるかによって変わる）で，パソコン（Windows 10，Office）が設置されており，個人の ID とパスワードでログインする[1]。ただし，

図表1　2017年度教室入口と教卓上のコントロールパネル

このパソコンに日本語の入力はできず，アルファベットのみの入力しかできない。

また，研究室内にプリンターは用意されておらず，プリントアウトは，大学構内の各所に設置されているコピー複合機に，このコンピュータからデータを送信する形で行う。また，電話が設置されており，学内及び市内は無料で使用できる。

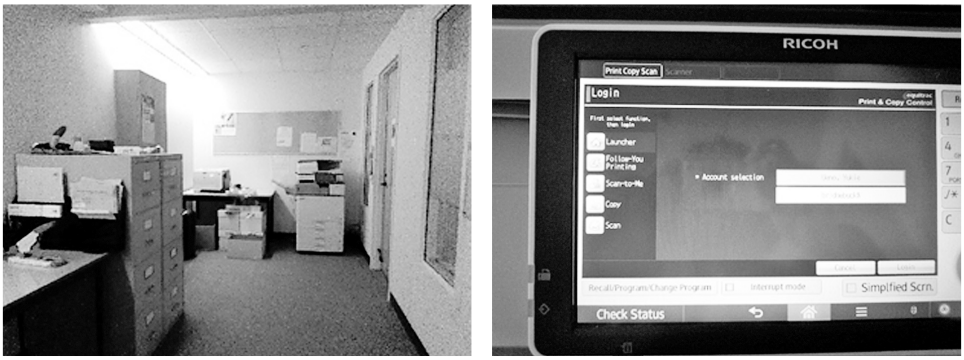
図表2　2018年度の研究室

2.2.5　コピー複合機

大学構内の各所に，コピー複合機が設置されている。これらの複合機は，個人のIDとパスワードでログインすることができ，①研究室から送信したファイルの印刷のほか，②コピー機能，③スキャナー機能（スキャンしたデータは大学から付与されるメールアドレスに転送）を利用することができる。利用料金は交換教員プログラムに紐づけられ，インターナショナルセンターに請

[1] アパートメントには，パソコンは設置されていない。Wi-Fiは利用可能である。

求されるようになっており，交換教員が支払う必要はない。



図表 3　研究室近くのコピー機と操作パネル

2.2.6　Moodle

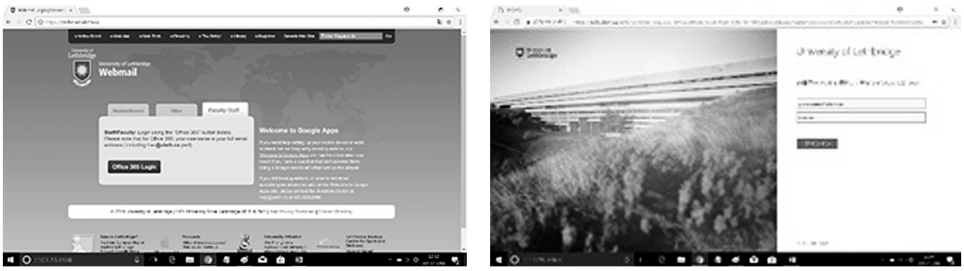
レスブリッジ大学では，Moodle という学習支援システムが稼働している。北海学園大学でいうところの LMS と概ね同じ機能を有し，使い方もほぼ同じである。

交換教員は，Moodle を通じて，配布資料や動画，URL を UP したり，アンケート調査や小テストを行ったり，課題の提出を求めたりすることができる。

なお，レスブリッジ大学では，教員が配布資料を準備し，講義時に配布するのではなく，Moodle 上に UP し，学生が必要に応じて準備することが推奨される。また，この科目では，特定の教科書を指定することができない。そのため，講義時に使用したパワーポイントや動画の URL は，学生の試験勉強に資するという意味で，可能な限り，Moodle 上に UP しておくことが望ましい。

2.2.7　メール

着任に合わせて，レスブリッジ大学におけるメールアドレス（@uleth.ca）が付与される。学生からの各種の問い合わせや連絡，レスブリッジ大学の教員からの連絡は，このメールアドレスに



図表 4　Moodle 画面と UofLeth メール画面

対して行われる。このアドレスをG-mailに登録して閲覧することもできる。

2.3　講義運営

2.3.1　出席の扱いと講義時間

毎回の講義では，出席を取ることが求められ，所定の開始時刻と終了時刻を厳守することが要求される[2]。そのため，教員は講義開始10分前には教室で授業準備を行う必要がある。学生の側も講義開始時点にはほぼ着席している。

講義は1回75分で週2回ある。たいていの場合は火曜日，木曜日の12：15〜13：30である。レスブリッジ大学では1講義＝1単位＝50分で，北海学園の教員が担当する講義は3単位となる（週75分×2回＝50分×3講義＝3単位）

北海学園大学では，12：10から昼休みなのでこの時間帯に講義が始まるのにカルチャーショックを感じた。

2.3.2　オフィスアワー

講義終了後の1時間が，オフィスアワーとして設定されている。そのため，当該時間は，研究室待機が義務付けられる。実際のところ，学生は，講義の開始時か終了時に質問や話をすることが多く，オフィスアワーとして設定されている時間帯に，来室する学生はほとんどいない[3]。

オフィスアワーの時間帯は，通訳者も研究室にて同席する契約となっている。

2.3.3　試験

学生は総じて成績評価に敏感である。そのため，シラバスおよび初回のガイダンスにおいて，成績評価の配点や試験，プレゼンテーションの方式などを事前に明確に示しておくことが重要である。

試験は授業の中，または定期試験期間に行う。2017年度と2018年度においては，全4回の試験を授業時間内に行っている[4]。ただ，学生は成績に敏感すぎるきらいがあるため，講義内試験を行う場合は，講義の前半に行うことが望ましい[5]。また，各試験結果についても，模範解答とともに速やかに開示することで，後々の成績照会や疑義申し立てなどを回避できる[6]。

---

[2]　初回講義はガイダンスがメインとなるので，欠席に伴うペナルティは課すべきではない。出席は，履修者名を記載した紙を作成して講義中に回覧し，名前の横に各自署名をしてもらう形で取るのがよい。

[3]　2018年度の実績でいえば，学生によるオフィスアワーの利用は2回であった。

[4]　レスブリッジ大学ではテストセンターにおけるWebテストも利用可能なようである。これは教員の管理下で一斉に受験する従来の方式ではなく，決められた期間に学生はWeb上で受験し解答を送信するもので，時間制限がある。教員はWeb上で各学生の解答をチェックし採点する。

[5]　試験を講義後半に実施すると，前半の受講がおろそかになる可能性が高い。

なお，カナダの学生による記述は，往々にして乱雑であり，判読不能なことが多い。そのため，試験問題は，可能な限り，正誤問題や選択問題とし，記述問題は穴埋め程度にとどめておくことが望ましい[7]。また，正誤問題や選択問題は，正解／不正解が明確であるため，評価面での疑義申し立てを避けることができる。

試験に記載する英語表記・表現の正確性に不安がある場合は，コーディネーターとなる教員に事前にチェックしてもらうこともできる。

2.3.4　講義内試験の欠席者への対応

講義内試験を行うような場合，欠席者が発生することがある。明確な理由によって当該日時に欠席することが学生から事前に提示された場合には，改めて日時を指定して，研究室で試験を受けさせることが望ましい[8]。また，試験当日の欠席者がいる場合には，後日に同一の試験を受けさせる可能性に備えて[9]，答案の返却や模範解答の開示時期を考慮する必要がある。

2.3.5　Accommodation Learning Centre

特別な事情を有した学生は，Accommodation Learning Centre に申請することで，講義の録音機器の持ち込み，別室での試験，時間を延長した形での試験などが認められる。

これらの申請は，個々の学生の責任の下で行われ，履修学生から利用申請があった場合には，同センターよりメールで連絡が来る。特に交換教員が対応する必要があるのは，別室での試験が発生する場合のみであり，このときは，事前に試験問題を，同センターにメールなどで提出する必要がある（答案用紙は後日，同センターに引き取りに行く）。

2.3.6　学生のノートテーキング

ノートパソコンやタブレットを利用してノートテーキングを行うことが一般的となっている。そのため，講義内において，こうした機器の利用を望まない場合には，初回講義時にその旨を通知しておく必要がある。

---

[6]　2018 年度は，採点答案をスキャンした上で，次回講義時に返却するとともに，模範解答を Moodle 上に UP した。疑義がある場合には，１週間内にメールで申し出るように通知した。

[7]　意見や感想などを問いたい場合は，Moodle を使うのが望ましい。

[8]　レスブリッジ大学では所定のテストを Web で受けるという制度を取っていることもあって，特定の学生に対して同一の試験を，別日・別時間帯で受けされることに対して問題とはならないようである。

[9]　当日中の連絡がなければ，理由のない欠席として扱ってもよい。

2.3.7　成績評価

成績

レスブリッジ大学における成績評価は，下記のような形で行われる（D（50点以上）以上で，単位取得となる）。

A＋	94-100	B＋	82-85	C＋	70-73	D＋	58-61
A	90-93	B	78-81	C	66-69	D	50-57
A－	86-89	B－	74-77	C－	62-65	F	0-49

2017年度および2018年度の成績評価基準

2017年度および2018年度の成績評価は，①試験，②日本語によるプレゼンテーション（グループ発表ないし個人発表），③出席および宿題の提出状況，授業への参加による総合評価としている。複数の評価軸を持つことで，いわゆるルーブリック評価にも対応できる形としている。

成績評価スケジュール

最終的な成績評価は12月の第3週ごろまでに，Brigdgeと呼ばれる所定のWebシステムを通じて，提出する。自分の成績について納得がいかない学生は，成績がわかった段階で，学内の調停委員会に提訴することができる。交換教員は，離任後に提訴がある場合に備えて，成績評価の証拠資料（答案データ，出席簿等）を，コーディネーターに残しておく必要がある。

留意点1―評価の客観性

2.3.3の試験の項で述べたように，多くのカナダの学生の文書記述は，判読不能なぐらい乱雑なものとなる。そのため，自筆のレポートは避けるべきである。

また，レポートについては，その採点基準が主観的となることが否めない。そのため，Web提出や電子ファイル形態での提出であったとしても，成績評価上，疑義申し立ての材料となってしまう可能性が高い。特に“高配点”となるレポートは避けることが望ましい。また，レポートと同様の理由で，プレゼンテーションも，主観的要素が強くなるため，高配点とすることは避けたいところである[10]。

留意点2―「A－」の扱い

レスブリッジ大学においては，大学院進学などを考える場合には，「A」以上の成績を有してい

[10] 実施するような場合には，10点を限度とする配点とし，基準を明確としつつ，かつ低評価とならないようにする必要がある。

るか否かが非常に重要となる。そのため，「A－」の評価がついた学生からは，成績の開示後，積極的な，ややもすると無理押しに近い申し立てがなされることがある。「A－」の評定をつけるような場合には，明確な根拠資料を出せるような状態としておきたい。

2.3.8　リーディングウィーク

秋セメスターには，Reading Week と呼ばれる講義休講期間が 1 週間ある。Reading Week は教科書を読みこんで試験の準備をするための期間として位置づけられる。授業は行わないが授業の週としてカウントしている。カナダの大学では，学期の中間に Reading Week を設けるのが普通になってきている。この間に学生は授業の遅れを取り戻す週となる。

2.3.9　学生の気質，学生の取り扱い

レスブリッジ大学では，学期内に履修する科目を自分で選び，その科目数に応じて授業料を支払う。また，自分自身で学費を負担していることもあって，講義を見る目は総じて厳しい。

学生の気質については，所感であるが，概ね以下のパターンに分けられる。

1．日本に対する興味関心が高く，かつ成績評価に敏感な学生
2．日本に対する興味関心が高いが，成績評価にはさして敏感ではない学生
3．実のところ日本に対する興味関心はあまり高くはないが，成績評価に敏感な学生
4．日本に対する興味関心もさほど高くなく，成績評価にもさして敏感ではない学生

学生の講義に対する取り組みも，日本文化に対する興味によって動機づけられる学生と高い評価を取るべく動機づけられる学生によって異なるところがあるように思われる。そして，日本文化に対する興味関心も，日本の漫画やアニメや映画，音楽を通じて喚起されたものであり，自分たち自身で特別な勉強をしているわけでもない。中には，日本の漫画やアニメを見たことすらないという学生も履修している。そのため，交換教員にあっては，日本に対する興味関心があるという前提で講義を組み立てず，日本についてほとんど何も知らない学生に，日本および日本文化を紹介していくという姿勢で講義を組み立てていく必要がある。

また，カナダの学校では，講義内に教員と学生が意見の交換をしたりすることが一般的である。そのため，適宜，質問を投げかけたり，意見を聞いたりすることも求められる。学生の側も，ある程度，積極的に答えてくれる。

その一方で，講義も終盤に差し掛かると，早く席を立ちたいという学生も出てくる。このあたりの雰囲気は，日本と同じであるが，学生・教員とも所定の時刻を前に講義を終えることができないため，途中で切り上げることもできないし，途中退出もない。

受講学生のバックグランドを見ると，2017 年度の場合は，すでに日本語の授業を履修済で中級，上級レベルの日本語能力を持つものが数名いた。日本への渡航経験があるものも数名いた。東京都の離島にまで行き BRUTUS の記者から取材を受け，自分が載った雑誌の記事を見せにきた学生もいた。過去に夏季語学研修で本学を訪れた者もいた。また，次の年 2018 年に語学研修で札幌に来た者もいる。

受講学生の所属学部は多様で文系，理系学部両方から来ていた。インフォメーション・サイエンスやニューメディア系の学生が若干多いという印象を持った。以下に示すのは，学期の最初に書いてもらったアンケートの結果である。

図表 5　2017 年度受講学生の基礎データ

DST 2008 Japanese Culture: Student Information Form							
	STUDENT NAME	Year	Area of Study	part-time hours	Interests	been to Japan?	One thing to hope to learn
1	A	4	Economics	16	Music, soccer, cooking	No	Japanese language
2	B	5	English	0	writing fiction, reading fiction, activities with my family	No	culture, history, myth, language
3	C	4	computer science	0	Music, Coir	No	Folklore
4	D	2	Biological sciences	0	weighy lifting	No	history
5	E	3	Sociology, Spanish	10	Travel, Spending with family & friends	No	Culture, History, People
6	F	2	New Media	0	Voice Acting	No	Everything
7	G	2	computer science	0	shopping, hiking, traveling	Tokyo, Kagoshima, Yakushima, Hiroshima, Kurashiki, Okayama, Kyoto, Osaka, Nara	arts
8	H	3	computer science	0	Travel	No	Language & culture
9	I	3	Fine Arts	10	gardening, vegetables	No	history
10	J	4	New Media	0	Horse, Carriage Driving	No	Japanese culture, religions
11	K	3	Psychology	3	Hockey, Automobile mechanics, Hiking	No	Culture
12	L	5	Humanities	0	drawing, reading, baking, singing in choirs	No	festivals
13	M	4	History	16	cooking, traveling, reading	No	Tea ceremony
14	N	5	Environmental Science	35	hiking, dragonboating	No	basic phrases, history, culture & nature, religions
15	O	4	computer science	0	travel, snowbording, coffee	Osaka, Hachiojima, Aogashima	Japanese language
16	P						
17	Q	2	Newroscience	0	Hiking	No	Cuisine
18	R						
19	S	3	Biochemistry	0	playing instruments	No	Tea ceremony
20	T	2	New Media	0	photography, art	No	culture
21	U	4	New Media	15-20	Cooring, travel	No	Nihongo
22	V	5	computer science	8-12	Track & Field, throwest	No	Japan
23	W	5	Education	40	photography	No	Japanese culture
24	X	2	General Humanities, English Language Arts	30	video games, movies	Yes, Tokyo, Kyoto	japanese superstitions, religions
25	Y	3	Neuroscience	0	Hockey, video game, cooking	No	samurai
26	Z	3	Social Sciences	15	musical theater	No	Everything
27	AA	5	Psychology	15-25	Reding Fantasy & sci-fi	Tokyo,Kyoto, Hiroshima, Hakone	women's ceremonial roles
28	BB						
29	CC	3	Biochemistry	20	gardening	No	Plant varieties
30	DD						
31	EE	1	computer science	60	video games, baking	No	basic
33	GG	2	Management	0	animals, dogs	Yes	culture
34	HH						
35	II	2	Humanities	0	travel	No	history
36	JJ	5	Music	20-40	music, reading	No	different view point of the world

2.3.10　トラブルへの対応

講義運営上のトラブルについては，コーディネーターとなる教員と相談し，対応していくことになる[11]。したがって，同教員が北海学園大学に滞在中に知己を得ておくのが望ましい。

2018 年に関して言えば，初回講義において，2018 年度前期に北海学園大学に赴任していた交換教員が来室し，「自分がコーディネーターであり，教務上の質問がある場合には自分に連絡するように」と挨拶をしている。その後，初回のテストに立ち会っていただくなど，数回の講義を参観していただいた。さらに，Moodle が閲覧できない，講義スケジュールの変更，シラバス記載の修正といった問題が生じた場合には，適宜，相談に乗ってもらった。

3．2017 年度の講義―上野之江

直近の詳しい講義についての説明は，後半の「4．2018 年度の講義―赤石」を参照されたい。ここでは，2017 年度の概要と授業のヒントなど参考になるようなことを記述する。

3.1　講義の組み立て

日本の地理，歴史，文化，日本語，社会についてどのように授業を組み立てるか悩んだ。特に日本語については，言語学的情報とひらがなやカタカナの読み方，書き方，日常会話を他のトピックと同じように 2，3 回で終えるか，それとも毎回 10-15 分程度入れて行うか悩んだが，後者でいくことにした。言語学的日本語の特徴などについては講義で取り扱い，学生の定着を考えひらがな漢字などの読み方や練習は各講義の後半に少しと宿題として行うことにした。

まず，自分の名前をカタカナで書けることを前半の目標にした。英語の名前を日本語のカナカナに直すというのは，日本語の言語学的特徴，五十音，拍，などいろいろな要素を理解することにも繋がる。毎回の提出物にはカタカナで名前を記載することを義務付けた。クラス内での名前の呼び方も日本語読みで読むこととした。こうすることでカナダの大学という異文化の中で少しなじみのあるカタカナに触れ，気分的に楽になった。学生も最低自分の名前は日本語で書けるようになったと思う。

3.1.1　講義内容

数年前の講義内容，講義 PPT を参考にして構築した。地理，歴史，文化の定番内容についてはすでに前任の先生方がすぐれた教材を残しているので，それを利用し発展させた。笹嶋先生，岡崎先生の PPT に特にお世話になった。ご本人からも快く利用の許諾を頂き感謝している。

日本の社会の領域では，当時，和食が世界遺産に登録されて間もないころだったので，日本の食文化，和食，小学校の給食などについて講義した。

---

[11]　交換教授の生活面に関するトラブルは，インターナショナルセンターの担当者の管轄となる。

PPTはすべて英語で記載した。通訳の朋子さんに事前に送り，英語の確認をしてもらった。

学生の反応としては，日本の人口構成，老齢化社会，教育にかかる費用，アニメ，サブカルチャーに多くの意見・質問が出た。カナダの現状との比較をすることで自国の制度，習慣をあらためて意識し考える機会になったようだ。アニメ，ヴァーチャルゲームなどについては，学生の知識の方がはるかに上であった。

3.1.2　成績評価

2017年度の成績評価は，下記のような形で行った。

講義内テスト1：15%
講義内テスト2：20%
講義内テスト3：20%
講義内テスト4：15%
日本語によるオーラルプレゼンテーション：10%
講義への参加：20%（宿題15%，出席5%）

3.2　講義運営上の工夫

3.2.1　講義において

講義のハンドアウト，宿題は事前にPDFにしてMoodleで配布した。講義終了後，講義に使ったPPTもMoodleにアップした。テストの前には，Study Notesを配布した。

宿題は，講義の内容についての理解を問うもので毎回5題くらい出題した。記述方式で次の講義の最初に紙面に書かれた宿題を回収し，添削やコメントを書き次の講義に返却した。毎回講義の最初に宿題の解答を行い，学生の理解が足りないところは補足した。この毎週の宿題を講義内テストに反映した。

授業の出席は日本の大学の授業を体験するため，本学で利用している出席カードを持参し，配布・回収した。このカードに学生はカタカナで自分の名前を書き込み，授業の質問，コメントを書いて提出した。色とりどりの出席カードの使い方など説明すると，学生は興味深々だった。

3.2.2　試験，成績評価において

成績評価について学生は細かく反応すると事前に聞いていたので，授業では時間を取って詳細に説明した。宿題の評点，欠席の取り扱いなどその都度何回も確認した。

第1回目のテスト終了後にはたくさんの質問があったが，評価方法について納得すると次からは評価についての質問はほとんどなかった。個人的な質問メールがきた時は，授業での説明を元に返答すると納得した。

他の授業でフィールドワークや実習に2－3週間行く学生がいた。テストの時にはシラバスに欠席時の対応が記載されているので，事前に連絡がきた。学生の都合のよい時間，たいていは授業の前後，に研究室に来てテストを受験した。

3.3　全26回の講義内容

2017年度の全26回の講義内容は，下記の通りである。

第1回　Introduction：自己紹介，シラバス，成績評価，欠席について，
Student Information Sheet

第2回～5回　日本の地理と歴史，各クラスの最後に，日本語の挨拶，ひらがなの読み方，書き方

第6回　Test 1：3週目に小テストをした。学期開始から1か月で学生の履修登録が確定する。学生は授業に出て，小テストを受け，だいたいの感触をつかみ履修するかどうかを決定するとレ大教員メンターから事前に聞いていた。最初の4週間はトライアル期間というところか。こちらもこの頃には，学生の資質，傾向が徐々にわかって授業もやりやすくなる。

第7回　Test 1の復習。説明。神社とお寺，カタカナの読み方

第8回　茶道と利休，カタカナの書き方

第9回～10回　和食，日本の伝統料理，自分の名前を書く

第11回～13回　日本の伝統芸能（能，文楽，歌舞伎），カタカナの書き方練習

第14回　Test 2，日本語のアナウンスを聞く（地下鉄のアナウンス）

第15回　日本のマナー，日本語の看板を読む(1)

第16回　日本の行事，日本語の看板を読む(2)

第17回　日本の子供たち，教育システム，数を読む練習

第18回　相撲，Asian Culture Daysに参加，講義を公開で学内ホールで行った。

第19回　ポップカルチャーとアニメ，時刻を伝える

第20回　Reading Week(1)
リーディングウィークにつき，休講である。

第21回　Reading Week(2)
リーディングウィークにつき，休講である。

第22回　Test 3，日本語オーラルプレゼンテーションの準備，グループを決める。

第23回～第25回　オーラルプレゼンテーション準備(1)(2)(3)
日本語の言語学的特徴，地震津波と災害

第26回　Test 4

図表 6　Asia Culture Days：相撲についてアトリウムで講義をする

3.4　学生からの評価

授業が終わり帰札してしばらくすると，２月に授業評価が届いた。授業評価は本学の授業アンケートと同じく記載するか否かは学生の自由なので，34 名中 14 名の評価だった。評価について不満１名，ミススペリングの指摘，もっと深い内容を期待した，などの記述があった。私自身が学びながらの授業だったが，学生は私が日本文化についてよく知っているとの感想を持ったようだ。

評価内容は，18 項目あり学生がどのように授業に取り組んだのかを項目が５項目，残りは教員についての評価になっている。教科書，資料，オフィスアワーなど学生に的確に対応したか，説明や成績評価は適切だったと思うか，学生の質問，サポートはしっかりしていたか，フィードバックは適切か，公平な態度だったか，など多岐にわたっている。最後にコメント欄に自由に感想，助言などを書くことができる。

図表 7　Japanese and Japanese Culture（2017）の授業スケジュール

(Thursday)	(Tuesday)
Session 1 (Sept 7) Introduction	Session 2 (Sep t12) Geography and History (1) Japanese greetings (1)
Session 3 (Sept 14) Geography and History (2) Japanese greetings (2)	Session 4 (Sept 19) Geography and History (3) Reading hiragana alphabets (1)
Session 5 (Sept 21) Geography and History (4) Reading hiragana alphabets (2)	Session 6 (Sept 26) Test 1 Japanese Art-Ukiyoe-
Session 7 (Sept 28) Shrines and Temples Reading katakana alphabets	Session 8 (Oct 3) Tea Ceremony & Rikyu Writing hiragana alphabets (1)
Session 9 (Oct 5) Japanese Food -Washoku- Writing hiragana alphabets (2)	Session 10 (Oct 10) Japanese Traditional Food Writing your name
Session 11 (Oct 12) Japanese Performing Arts (1) Writing katakana alphabets (1)	Session 12 (Oct 17) Japanese Performing Arts (2) Writing katakana alphabets (2)
Session 13 (Oct19) Japanese Performing Arts (3) Listening to announcements (1)	Session 14 (Oct 24) Test 2 Listening to announcements (2)
Session 15 (Oct 26) Japanese Manners Reading Japanese Sign (1)	Session 16 (Oct 31) Traditional Events in Japan Reading Japanese Sign (2)
Session 17 (Nov 2) Kids in Japan and Education Reading Numbers	Session 18 (Nov 7) Sumo This class will take place at the University Atrium as part of the Asia Culture Day. Attendance is mandatory.
Session 19 (Nov 9) Pop Culture -Anime, Anison- Telling Time	Session 20 (Nov 14) Reading Week
Session 21 (Nov 16) Reading Week	Session 22 (Nov 21) Test 3 Preparing for Oral Presentation
Session 23 (Nov 23) Oral Presentation (1) Linguistic features in Japanese (1)	Session 24 (Nov 28) Oral Presentation (2) Linguistic features in Japanese (2)
Session 25 (Nov 30) Oral Presentation (3) Earthquake and Tsunami	Session 26 (Dec 5) Oral Presentation (4) Test4

図表 8　2017 年度　クラス写真

図表 9　授業評価アンケートの結果

```
==============================================================================
Evaluation Report                                              201703IDST2008A
Japanese Culture                                                     Fall 2017
==============================================================================

Instructor:       Yukie Ueno
Eval Opened At:   Fri Nov 24 00:00:00 2017
Eval Closed At:   Wed Dec  6 23:59:59 2017
Processed At:     Thu Dec  7 04:15:36 2017

Submissions:      14
Eligible:         33
Response %:       42.42%


==============================================================================
Results Summary: Multiple Choice Responses
==============================================================================

                                  # 3------------.
                              # 2------------.   |   .----------4 #
                          # 1------------.   |   |   |   .--------->4 #
                                          |   |   |   |   |            # resp-.
1 Year of Study                           2   4   2   1   5                 14

                              # Minor--------.   .-Degree/GLER requireme #
                          # Major--------.   |   |   .---Interest #
                                          |   |   |   |                # resp-.
2 Why did you take this course?           0   0   7   7                     14

                              % Good---------.   .-Unsatisfactory %
                          % Excellent----.   |   |   .-------Poor %
                                          |   |   |   |                # resp-.
3 My effort in this course was           64  29   7   0                     14
5 The course planning and material       64  36   0   0                     14
   organization was

6 The textbooks and other learning       86  14   0   0                     14
   materials were
7 The instructor's punctuality was      100   0   0   0                     14
8 The instructor's availability to       57  43   0   0                     14
   students, including office hours
   or by appointment, was
9 The instructor's explanation of        71  29   0   0                     14
   grading criteria was
10 The instructor's delivery and         64  29   7   0                     14
   explanation of ideas and concepts
   were

11 The instructor's encouragement of     93   7   0   0                     14
   students' questions, discussions,
   and critical thinking was
12 The instructor's provision of         93   7   0   0                     14
   timely and useful feedback on
   students' work was
13 The fairness of the assessments       93   0   7   0                     14
   (exams and/or assignments) of
   material covered was
14 The instructor's effort to make       86  14   0   0                     14
   the course as interesting as
   possible was
15 The instructor's effort to make       43  36  21   0                     14
   the course as challenging as
   possible was

16 The instructor's treatment of         93   7   0   0                     14
   students with respect and without
   prejudice was
17 This instructor overall was           86  14   0   0                     14
18 This course overall was               71  29   0   0                     14
```

Results Summary: Text Responses

A. Please comment constructively regarding this course and/or the instructor. Comments must focus only on issues relevant to the teaching of the course.

A. The course was super interesting and fun, but very easy. Ueno-sama engaged us and helped us a lot.

A. I thought the class was very interesting and organized. The prof really knew the Japanese culture which made the experience authentic and enjoyable. there were a few spelling mistakes, but overall I believe she did a wonderful job at teaching Japanese culture!

A. My only complaint with the course would have to be the focus on phrase memorization. With a course such as Japanese culture there will inevitably be some vocabulary work; however in my opinion the amount of vocabulary learning in this course exceeds the amount that should occur within such a course. Other than this I enjoyed the course immensely, Yukie Ueno is fantastically knowledgeable about the subject and it was an immense pleasure to learn from her.

A. Course was really interesting, but it was a little odd how the information was presented. We could have gotten through much more material if Professor Ueno had just spoken in English rather than dictated in Japanese to her aide who then translated into English, making it take twice as long to get through anything.

A. Not too much to say as both the professor and the course were good and interesting. I liked learning about the Japanese culture.

A. Best professor she was very knowledgeable and went to great length to teach and for students to understand the topic better.

A. The instructor takes her time to go over concepts in the class and explain the cultural relevance. It is not as in-depth as I was hoping, but I think perhaps it is more difficult to focus on the more hidden aspects of culture. I found the tests rather unchallenging as they followed the same fill-in-the-blank format as the coursework. Tests were also made in such a way that students often earned more than 100% on them.

A. great class, helpful teacher

A. One of the best professors!! she really made the course a lot easier.

A. I thought this class was very well planned and I learned a lot. The instructor clearly knew her subject manner and was very personable.

A. The teacher expected students to be engaged in the course material, and was very organized in her delivery.

18	This course overall was	71	29	0	0	14

4．2018 年度の講義―赤石篤紀

4.1　講義の組み立て

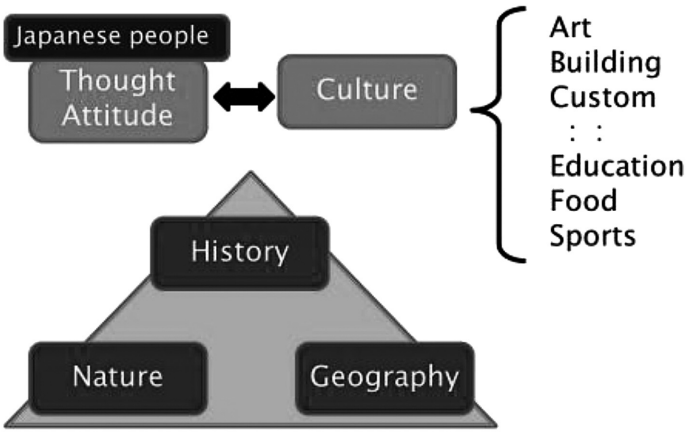
4.1.1　講義内容

2018 年度の「Japanese and Japanese culture」は，2017 年度の講義内容を踏襲し，日本文化と日本語に関する学習の二本立てとした。時間配分は日本文化の教授が 55 分，日本語に関する学習が 20 分である。日本語の学習については，基本的な挨拶，ひらがな／カタカナの読み，自分の名前の紹介の書き取り，日本語による自己紹介の方法に限定した。これは，レスブリッジ大学において，別途日本語のクラスが展開されているためであり，このコースで日本語学習のウェイトを高めると，成績評価上，日本語クラス履修者が有利になりすぎると判断したためである[12,13]。

また，日本文化に関する学習については，図表 10 および図表 11 に示すような枠組みに即して，４つのパートに分けた。

第 1 のパート（第 1 回～第 6 回）は，人々の思考や選好，行動に影響を与え，結果として文化に影響を与えると考えられる基本要素についてのセッションである。具体的には，地理，自然，歴史，宗教について学習するパートである。

第 2 のパート（第 7 回～第 12 回）は，伝統的な文化に関するセッションから構成される。具体的には，寺社，武士と城，忍者，禅と茶道，武士道である。



図表 10　Framework on Cultural development

[12] 科目名称にある“Japanese”が，いわゆる「日本人」を意味するのか「日本語」を意味するのかは不明であるが，後者の日本語と解して，多くの交換教員は講義運営している。しかしながら，レスブリッジ大学には日本語を学習するためのクラスもあることから，このクラスとの棲み分けの問題や日本語クラスの履修学生に有利な形の成績評価となるという問題が指摘される。

[13] 2019 年度からは，講義科目名が「Japanese Culture」と改められ，この講義の枠内でいわゆる日本語の学習を行わなくてもよくなったようである。

図表 11 「Japanese and Japanese Culture」の 4 つの基本パート

1. 基本的要素

Geography, Nature and Climate
History
Religion
Japanese alphabets

2. 伝統文化／思想

Shrines and Temples
Samurai warrior and Japanese castle
Ninja
Zen and Tea Ceremony
Bushido（which means Samurai philosophy）

3. 伝統芸能／現代アート

Kabuki and Noh play
Ukiyoe, Manga and Animation
Buddha Statues, Figures and craftsmanship
Japanese Traditional Food
Sumo

4. 現代の日本人のライフスタイル

Annual Events
Songs
Sports culture
Kids and Education
Housing
Japanese working style

第 3 のパートは，芸能に関するセッションから構成される。具体的には，能と歌舞伎，浮世絵，漫画，アニメ，仏像，フィギュア，日本食などが扱われ，伝統芸能と現代アートに分類にされるものが混在する。

第 4 のパートは，現代の日本人のライフスタイルに関するセッションから構成される。具体的には，年間行事，J-pop，スポーツ観戦，日本の学校，住宅，日本人の働き方である。

4.1.2　成績評価

2018 年度の成績評価は，下記のような形で行った。

講義内テスト 1 ：15%
講義内テスト 2 ：20%
講義内テスト 3 ：20%
講義内テスト 4 ：15%（ 5 %はレポートで代替）
日本語によるオーラルプレゼンテーション（日本語による自己紹介）：10%
講義への参加：20%（宿題 15%，出席 5 %）

無断欠席は，コーディネーター教員との相談の下，無断欠席 1 回につき－ 1 %のペナルティとした。

4.2　講義運営上の工夫

4.2.1　講義において

総花的な講義

2.1.2で示したように，この科目の履修者が様々な学部／学科に所属しており，また日本に対する興味関心の方向や程度も異なり，特定の分野に特化した講義を展開すると，学習内容に全く興味を持てない学生が出てくる可能性がある。そのため，日本文化に関する学習内容については，総花的なものとした。

動画の積極利用

言葉や写真だけで説明しにくいこともあるので，動画を積極的に活用した。

ただし，動画およびそこで付される解説の信ぴょう性の問題から，NHKが制作した動画を，Movie Makerで適宜編集して利用した。

Moodleの利用

Moodleに，講義内で使用したもの（パワーポイント資料，配布資料，宿題）をUPした。これは，復習に資するためであり，欠席者に対する対応でもあった。

また，Moodle上でレポートの提出や小テストを行えることが分かった段階から，これらを領して予習課題を課した。具体的には，次回講義で扱うテーマについての動画をUPし，それを視聴した上で，100-200 word程度のレポートを書かせて，提出させた。

宿題の返却

宿題については，提出後，速やかに採点をし，次の講義での返却を目指した。これは，宿題で問うた問題を，講義内テストでも出題するためである。

返却の時間，答え合わせの時間を削減するために，返却は講義前に各自が教卓からピックアップする形を，答え合わせについては模範解答をMoodleにUPする形とした。

気づき

火曜日と木曜日の週2回の講義であり，火曜日と木曜日の間は，中1日となる。そのため，火曜日の講義後の課題については取り組みが甘かったように見受けられる。

また，火曜と木曜日の週2回の講義ということであれば，各回の講義を独立した形で行うのではなく，火曜日と木曜日の講義内容に関連性を持たせた講義編成としたり，火曜日に講義，木曜日は火曜日の講義を踏まえたグループディスカッションとしてもよかったのかもしれない[14]。

[14] 火曜日の講義，木曜日の講義の2つの講義（75分＋75分）を1セットとした形で運営するという意味である。

4.2.2　試験，成績評価において

講義内での試験

講義内で試験（時間：20-40 分）を実施する場合，「講義の後に試験」，「試験の後に講義」という選択肢がある。前者には，制限時間前に試験を終えた学生はそのまま退出できるというメリットがあるが，前半の講義に集中しないというデメリットがある。後者には，制限時間前に試験を終えた学生が手持ち無沙汰となるデメリットがあるが，聴講に影響が出ないというメリットがある。

2018 年度については，「試験の後に講義」という形の実施形態とした[15]。

オーラルプレゼンテーション

予め評価基準を定め，図表 12 に示すようなルービックを配布した。また，自身の発表以外も

図表 12　オーラルプレゼンテーションのルービック

IDST 2008 Japanese & Japanese Culture
Oral Presentation

Oral Presentation Evaluation Rubric

Loudness of voice, intelligibility of the Japanese language, memorization and fluency will be evaluated.

Evaluation Items	2 points	1 point	0 point
Loudness of voice	I was able to hear his/her voice **well**. I could hear almost all of their talk.	I was able to hear his/her voice well. However, **from time to time it was small** and I could not hear him/her well.	He/She didn't talk in a loud voice. I was **not able to hear him/her well.**
Intelligibility	I was able to **understand thoroughly what he/she said.** He/She talked **appropriately.**	**Sometimes** I had a hard time to understand what he/she said.	I **couldn't understand what he/she said.** His/Her Japanese was **inappropriate.**
Fluency	He/She talked **fluently.**	**Sometimes he/she stopped and repeated** the words and sentences.	He/She **always stoped** and reaped the words.
Memorization*	He/She didn't see the script at all.	He/She saw the English script.	He/She saw the script of Japanese prepared by him/herself
Preparation	He/She looked that he/she **practiced well** and **well prepared.**	He/She prepared and practices but He/She **needed more practice.**	He/She looked like he/she **didn't practice** beforehand.

*I prepare the English script. You need to prepare the script in Japanese for forgetting your self-introduction phrase.

[15]　時間前に解答を終えた学生には，指定の時間に戻ってくるように伝え，一時退出を認めた。また，空いた時間を用いて講義アンケートに回答することを求めた。

しっかりと聞くように促すために，教員・通訳者・学生による総合的な評価とし，それぞれの評価の加重平均値として，オーラルプレゼンテーションの最終評価とした。

4.3　最終評価の分布

図表12は，2018年度の履修学生38名の成績である。講義内テストが70%，日本語による自己紹介が10%，講義への参加が20%（宿題15%，出席5％）による評価である。

図表13　2018年度の成績評価

評価	点数	人数	%
A＋	94-100	9	23.7%
A	90-93	6	15.8%
A－	86-89	8	21.1%
B＋	82-85	3	7.9%
B	78-81	4	10.5%
B－	74-77	3	7.9%
C＋	70-73	0	0.0%
C	66-69	0	0.0%
C－	62-65	1	2.6%
D＋	58-61	1	2.6%
D	50-57	0	0.0%
F	0-49	3	7.9%

振り替えると，「A」以上の評価が39.5%と幾分高いように思える。これは，日本語による自己紹介と講義への参加の得点率が高く，テストも選択問題を中心としたことが寄与している。

試験において，記述形式の問題を出すことが難しいことから，平均点はどうしても高くなり，どうしても，他科目と比べて高評価となってしまう。そのため，ボーナスマークや単なる出席の評価は工夫の余地がある。2018年度は，出席を5％，International Education Week[16]のボーナスマークを2％としていたが，やや大きかったと思われる。出席そのものは0％の評価とし（無断欠席のみペナルティの対象とする），ボーナスマークは2％を維持するものの，4回のレポート×0.5%＝2％としてもよいかもしれない。

また，オーラルプレゼンテーションの評価については，主観的要素があり，疑義が出やすい。そのため，配点を5％程度に抑えて，全体評価への影響が出にくい形としてもよかったと思われる。レスブリッジ大学で展開される他の講義の評価分布を参考に，われわれも担当科目となる「Japanese and Japanese Culture」の難易度や評価の方法を考えていかなければならない。

[16]　世界各国の文化を紹介するレスブリッジ大学のイベント。同イベントへの参加・レポート（Moodle提出）を加点対象とした。2019年度は開催されず。

図表 14　Japanese and Japanese Culture（2018）の授業スケジュール

(Thursday)	(Tuesday)
Session 1 (Sept 6) Introduction	Session 2 (Sept 11) Geography, Nature and Climate Japanese greetings (1)
Session 3 (Sept 13) Geography and History Japanese greetings (2)	Session 4 (Sept 18) History -Religion and Ideology- Reading hiragana alphabets (1)
Session 5 (Sept 20) History -Characters and Words- Reading hiragana alphabets (2)	Session 6 (Sept 25) First in class test Reading katakana alphabets (1)
Session 7 (Sept 27) Shrines and Temples Reading katakana alphabets (2)	Session 8 (Oct 2) Samurai warrior and Japanese castle Writing katakana alphabets (1)
Session 9 (Oct 4) Ninja Making origami (1)	Session 10 (Oct 9) Zen and Tea Ceremony Writing katakana alphabets (2)
Session 11 (Oct 11) Bushido (which means Samurai philosophy) Writing hiragana alphabets (1)	Session 12 (Oct 16) Second in class test Writing hiragana alphabets (2)
Session 13 (Oct 18) Japanese Performing Arts (1)- Kabuki and Noh Writing name in Japanese	Session 14 (Oct 23) Japanese Performing Arts (2)- Ukiyoe, Manga and Animation Kanji (Chinese characters) in Japanese (1)
Session 15 (Oct 25) Japanese Performing Arts (3) -Statues, Figures and craftsmanship Making Origami (2)	Session 16 (Oct 30) Japanese Traditional Food Kanji (Chinese characters) in Japanese (2)
Session 17 (Nov 1) How to give names to children in Japan Writing your name in Kanji	Session 18 (Nov 6) Sumo This class will take place at the University Atrium as part of the International Education Week. Attendance is mandatory.
Session 19 (Nov 8) Third in class test Reading number in Japanese Japanese greeting (3)	Session 20 (Nov 13) Reading Week
Session 21 (Nov 15) Reading Week	Session 22 (Nov 20) Traditional Events and Songs in Japan Phrase of self-introduction in Japanese
Session 23 (Nov 22) Sports culture in Japan Self-introduction in Japanese (1)	Session 24 (Nov 27) Kids, Education in Japan Self-introduction in Japanese (2)
Session 25 (Nov 29) Housing in Japan and Manners Self-introduction in Japanese (3)	Session 26 (Dec 4) Fourth in class test Japanese companies and work style Self-introduction in Japanese (4)

4.4　全26回の講義内容

2018年度の全26回の講義内容は，図表14に示す通りである。以下，順にみていく。

4.4.1　Introduction

Introductionとして，担当教員となる自分自身の紹介と講義の進め方についての説明を行った。

前半の自分自身の紹介では，専門分野や家族構成について話をしつつ，北海道ならびに北海学園大学の簡単な紹介を行っている。講義で用いられる主な言語は日本語であり，通訳者によって翻訳されることもここで説明した。

後半の講義の進め方は，いわゆるガイダンスである。シラバスを配布しつつ，講義のスケジュール，成績評価の方法についての説明を行った。学生からは，教科書の有無，テストの方式やプレゼンテーションのテーマに関する質問が出た。

4.4.2　Geography, Nature and Climate/Japanese greetings (1)

Geography, Nature and Climate

まず，日本の地理的な位置を確認した。これにより，日本は，歴史的に中国からの影響を強く受けていること，欧州との関係は16世紀から，北米との関係は18世紀からであることを確認する。これにより，各地域との文化的つながりの時期を認識してもらう狙いがある。

次いで，日本が海に囲まれた，山地の多い島国であり，牧畜や居住に適した土地が狭いこと，本州が中心となることを確認する。これにより，後の講義で話をすることになる魚を中心とした食生活，木造の建築物，狭い住居に関する理由を意識せしめる。

最後に，自然災害（地震，火山の噴火，台風）について紹介し，自然信仰について理解する前提を整えた[17]。

Japanese greetings (1)

日本語の挨拶としては，朝・昼・晩の基本的な挨拶，「おはよう（ございます）」，「こんにちは」，「こんばんわ」に加えて，感謝の挨拶「ありがとう」と，その返答となる挨拶「どういたしまして」を教えた。

4.4.3　Geography and History/Japanese greetings (2)

Geography and History

第2回で学習した日本の地理に関する学習を念頭に置き，①海外からの影響，②日本の中心地，③権力者（文化の庇護者）の歴史的な変遷についての講義を行った。

[17] 四季については，カナダにも四季があるので，あまり詳細な説明をせずに，資料を提示するにとどめた。

①の海外からの影響については，a）海外との往来があるか否か，b）どの国の影響が強いかという点に焦点を当てて，日本の歴史を説明することになる。例えば，「黎明期において中国から人々が渡来して様々な技術や仏教が日本にもたらされた」，「平安時代においては中国との往来が途絶えてかな文字など日本独自の文化がはぐくまれた」，「欧州との接触は16世紀半ばでそこで鉄砲とキリスト教がもたらされた」といった説明である。これらの知識は，後の講義で扱うことになるかな文字や宗教，様々な文化的コンテンツを説明／理解する上で，不可欠なものと考えた。

また，第二次世界大戦後，アメリカの影響力が強いことも説明しておくと，アメリカナイズされた現在の日本についての理解がなされる。

②日本の中心地については，天皇の住まい，幕府の位置の変遷をみる。歴史的に見ても，京都と東京が日本の中心地であり，有名な建築物などが本州（特に京都）に所在することが理解される。

③権力者については，皇族から貴族，武士，商人といった変遷を示す。そして，権力者の好みが各時代の文化に反映されることを理解せしめる。例えば，平安時代は貴族が権力を掌握することになり，華美なものが好まれたのに対して，鎌倉時代は武士の時代であり，質実剛健で質素なものが好まれたり，禅の思想が広まっていったという理解である。

Japanese greetings (2)

日本語の挨拶としては，別れの挨拶，「さようなら」，「またね」に加えて，食事の際の挨拶「いただきます」と「ごちそうさま（でした）」，「おいしい（です）」を教えた。

4.4.4 History -Religion-/Reading Hiragana alphabets (1)

History -Religion-

この回では，日本人の宗教観，日本における宗教的イベントについて概観した後に，日本の宗教史についてみていく。具体的には，自然信仰，神道といった日本固有の宗教，仏教の伝来，キリスト教の伝来と普及について紹介する。ここで宗教を取り上げるのは，信仰が思想や行動，文化に大きな影響を与えたと考えられるからである。

Reading Hiragana alphabets (1)

ひらがなの50音表を渡し，整音（あ～ん）の読み方を教えた。

4.4.5 History-Characters and Words-/Reading Hiragana alphabets (2)

History-Characters and Words

かな文字の形成，それに基づく日本固有の文学の起こりについてみていく。合わせて，カタカナが専ら外来語に充てられること，日本の文章が縦書きであることを紹介する。

ここでは，NHKが製作した『BEGIN Japanology-Hiragana-』を用いた。

Reading Hiragana alphabets (2)

濁音（が／ぎ／ぐ／げ／ご／など），拗音（きゃ／きゅ／きょなど）の読み方を教えた。

4.4.6　First in-class test/Reading Katakana alphabets (1)

First in-class test

第2回～第5回までの講義を範囲とした1回目の講義内テスト（問題数：30問）を実施した。試験時間は40分としたが，大半の学生は20分で解答を終えていた。

Reading Katakana alphabets (1)

カタカナの50音表を渡し，整音（あ～ん）の読み方を教えた。

4.4.7　Shrines and Temples/Reading Katakana alphabets (2)

Shrines and Temples

神社と寺院の違いを説明しつつ，実際の神社と寺院の動画を用いて，視覚的にも異同点を確認してもらった。ここでは，『BEGIN Japanology -Shinto Shrine-』，『Japanology Plus -Shrine Duties-』，『BEGIN Japanology -Todaiji-』，『Japanology Plus -Shrine and Carpenters-』を編集して利用した。

また，神社の参拝の方式（二礼二拍一礼）についても，実際に行ってもらった。このような実践はカナダの学生に喜ばれる。

Reading Katakana alphabets (2)

カタカナの濁音，拗音，さらに長音の読み方を教えた。

4.4.8　Samurai warrior and Japanese castle/Writing Katakana alphabets (1)

海外の人に，日本について何を知っているかと聞けば，“侍”と答える。また，歴史的に見ても，長らく権力を掌握していたのは侍であり，日本の文化史にも大きな影響を及ぼしている[18]。そこで，この回は，侍について取り上げた。

具体的には，侍が日本を統治した期間が1186年から1868年までの700年間であること，その間，幕府が数回変わっていること，この700年の中で戦い方式が変わり，鎧・兜の様式や城の形

[18]　日本においては，侍というよりも，武士という単語を利用することが多い。しかし，外国人にとっては侍という言葉の方が馴染みがあるので，この講義では，武士という単語を用いず，侍という単語を用いた。

態が変わっていることを説明している。

ここでは，『BEGIN Japanology -Armour-』，『BEGIN Japanology -Castle-』，『Japanology Plus -Restoring Castle-』を編集して利用した。

Writing Katakana alphabets（1）

自分自身の名前を，カタカナで書くための練習時間とした。この日は，自分のファーストネームに該当するカタカナを仮名表から探し出した上で，書く練習をした。

4.4.9　Ninja/Writing Katakana alphabets（2）/Making Origami（1）

Extra Session：Sengoku Period

冒頭 20 分を利用して，戦国時代（群雄割拠の時代），この時代の三大英雄（織田信長，豊臣秀吉，徳川家康）についての追加的説明を行った。これは，茶道が成立したり，忍者が躍動した時代がこの時代であり，また下剋上という思想があって，そのアンチテーゼとして江戸期に武士道という思想が出現するという意味で，この時代の風潮の理解が，後の講義で扱う日本の精神的・文化的コンテンツの理解を促すために不可欠と考えたからである。

Ninja

忍者の役割や歴史を紐解きつつ，忍者の哲学を解説した。後段は，忍者の武器や忍術の紹介であり，やや息抜き的側面の強い回であった。『Japanology Plus-Ninja』，『Ninja Truth-Episode1』，『Ninja Truth-Episode2』を利用した。

Making Origami（1）

忍者つながりということで，折り紙で，手裏剣を作成した。作った折り紙の写真を撮り，その写真を Moodle 上に提出させるもらうことで，講義内課題とした。

折り紙遊びは，カナダでもより一般的なものとなっているようで，数人の学生は難なく折れていた。しかし，はじめて折り紙に触れる学生も多く，折り方が非常に雑などの国民性を垣間見ることができる。

4.4.10　Zen and Tea Ceremony/Writing Katakana alphabets（2）

Zen and Tea Ceremony

禅についての学習に入る前に，仏教の基本概念についてまとめた資料を配布し，予習課題を提示した。これは，禅を理解するためには，「あの世」，「諸行無常」，「悟り」，「他力本願」，「自力本願」といったことについて理解しておく必要があるためである。

講義においては，禅宗が仏教の一派であること，禅の修行方法（禅問答，瞑想），禅の精神が以

降の日本人の精神や文化に強い影響を与えていることをみた。茶道もその一つである。また，瞑想についても，椅子の上での簡易的な形であるが，実際にやってもらった。

茶道については，『BEGIN Japanology-Tea Ceremony-』を使いつつ，「和敬清寂」や「侘び寂び」といった茶の湯の概念を説明した。

Writing Katakana alphabets (2)

自分自身の名前を，ひらがなで書くための練習時間とした。この日は，自分のラストネームに該当するひらがなを仮名表から探し出した上で，書く練習をした。

4.4.11　Bushido/Writing Hiragana alphabets (2)

Bushido

「武士道」が戦国時代の下剋上のアンチテーゼとして出現したものであり，江戸期以降の考え方であることを説明した上で，「武士道」が，義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠の7つの徳から形成されることを，新渡戸稲造の著書に基づいて説明した。

これらの徳の重要性は，日本人に限定されるものではなく，万国共通のものである。しかし，忠を果たすために，結果として名誉を守るために自死（切腹）を選ぶことは，強烈な印象を与える。

多くの学生が見たことのある『Last Samurai』を取り上げながら，そこで描かれる武士道についても，映像を交えながら解説した。

Writing Hiragana alphabets (1)

自分自身の名前を，ひらがなで書くための練習時間とした。この日は，自分のファーストネームに該当するひらがなを仮名表から探し出した上で，書く練習をした。

4.4.12　Second in-class test/Writing Hiragana alphabets (2)

Second in-class test

第7回～第12回までの講義を範囲とした2回目の講義内テストを実施した。試験時間を40分としたが，大半の学生は20分で解答を終えていた。

Writing Hiragana alphabets (2)

自分自身の名前を，ひらがなで書くための練習時間とした。この日は，自分のラストネームに該当するひらがなを仮名表から探し出した上で，書く練習をした。

4.4.13 Japanese Performing Arts (1)-Noh play and Kabuki-/Writing name in Japanese

Japanese Performing Arts (1)-Noh play and Kabuki-

事前課題として，能と歌舞伎の違いについて解説した動画『Kabuki Kool-』を Moodle に UP し，能と歌舞伎の異同点についてのレポートを課した。

講義においては，訪日時に見る機会が多く，より大衆向けのために内容を理解しやすい歌舞伎について，能と対比しながら解説した。隈取，見得，女形，舞台装置について，動画を使いながら，ときに実践的に解説をした。

Writing name in Japanese

ひらがなとカタカナで自分の名前が書けるかどうかを確認した。

4.4.14 Japanese Performing Arts (2)-Ukiyoe, Manga and Animation-/Kanji in Japanese (1)

Japanese Performing Arts (2)-Ukiyoe, Manga and Animation-

北米では，多くの学生が日本の漫画を読んだり，アニメを見ており，漫画やアニメがきっかけで，日本や日本文化に興味を持つことが多い。また，浮世絵についても，何らかの形で葛飾北斎の作品（富嶽三十六景　神奈川沖浪裏：Great Wave）を見ていることが多い。

ある程度の理解があることを前提に，この回は，①浮世絵ができるまでのプロセス，②日本の漫画出版状況，③日本の漫画が世界的にも評価されている理由，④日本の漫画家のテクニック，⑤ DVD やフィギュアの販売等の二次利用を前提としたアニメの制作，⑥漫画を原作としないオリジナルアニメの制作について説明した。彼らが普段見ているものに，付加的な解説をつけるイメージで，講義を組み立てた。

Kanji in Japanese (1)

50 音＋α のかな文字を漢字に変換した一覧表（図表 15）を配布し，自身のファーストネームに，好きな漢字を当ててもらうようにした。ここでは，意味は度外視して，それぞれの文字のビジュアルで選んでもらった。

4.4.15 Japanese Performing Arts (3)-Statues, Figures and craftsmanship-/Making Origami (2)

Japanese Performing Arts (3)-Statues, Figures and craftsmanship-

この回は，仏像の形態の変遷，仏像の種類（如来，菩薩，明王，天部）といったいわゆる美術史から，プラモデルやガチャポンや美少女フィギュアを中心とした現代の造形カルチャーを紹介した。

後者の造形カルチャーは，オタク文化と呼ばれるものであるが，近年において若者層を中心に世界的に認められてきていることから取り扱うこととし，写真と動画を用いながら紹介した。細

図表 15　かな―漢字変換表

意味なし ver

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	ア	亜	吾	阿	唖	合	挙	有	明	安	蛙	悪	逢
2	イ	五	伊	居	医	井	異	威	位	委	衣	偉	囲
3	ウ	宇	鵜	雨	羽	右	卯	有	烏				
4	エ	絵	得	江	枝	恵	柄	依	重	衛	栄	笑	
5	オ	男	尾	緒	汚	雄	御	夫					

意味あり ver

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	ア	亜	吾	阿	唖	合	挙	有	明	安	蛙	悪	逢
		sub-	I		mutism	fit, suit	rise	existence	bright	peaceful	frog	evil, bad	meet
2	イ	五	伊	居	医	井	異	威	位	委	衣	偉	囲
		five	italy	existence	medical	well	different	prestige	rank	entrust	clothing	great	surroundi
3	ウ	宇	鵜	雨	羽	右	卯	有	烏				
		universe	cormorant	rain	wing	right	rabbit	existence	crow				
4	エ	絵	得	江	枝	恵	柄	依	重	衛	栄	笑	
		picture	obtain	river	branch	grace	handle	depend	heavy, overlap	guardian	flowrish	laugh	
5	オ	男	尾	緒	汚	雄	御	夫	織				
		man, male	tail	cord, beginning	dirty	male	rule, govern	husband	fabric				

かな点に拘って，繊細に造形物を作り上げる様は，日本の国民性を示す。

Making Origami (2)

造形ということで，折り紙で，難しいが最も有名で洗練された造形の鶴を作成した。作った折り紙の写真を撮り，その写真を Moodle 上に提出させるもらうことで，講義内課題とした。

4.4.16　Japanese Traditional Food/Kanji in Japanese (2)

事前課題として，懐石料理について解説した動画を Moodle に UP し，そこにみられる特徴についてのレポートを課した。

講義においては，日本料理には，①見た目の重視，②季節の演出，③魚と野菜を中心とした料理，④素材の味の重視といった特徴がある点を説明した。こうした特徴を踏まえながら，日本の代表的な料理として，寿司，天ぷら，鍋料理について紹介した。寿司については，よりカジュアルなスタイルとして，回転寿司が一般的となっており，外国人であったも気軽に行けるようになっていることにも言及した。

また，日本料理においては，専らだしが使われていることから，だしの作り方についても，紹介した。

Kanji in Japanese (2)

ファーストネームの漢字を選んだ第 14 回に続いて，今回は，自身のラストネームに，好きな漢字を当ててもらうようにした。

4.4.17 How to give names to children in Japan/Writing your name in Kanji

How to give names to children in Japan

日本では，音や形だけでなく，漢字の意味も考えながら，親は子供の名前を付けることを説明した。

Writing your name in Kanji

第 14 回講義で配布した漢字－かな文字変換表に，漢字の意味を付したものを配布し（図表 15），自身の名前のために当てた漢字を再検討してもらった。ビジュアルはよくとも，やはり意味が悪い感じは嫌なようで，多くの学生が当初案を変更した。

4.4.18 Sumo as the session in the International Education Week

11 月 5 日から 8 日にかけて開催されたイベント『International Education Week』の一セッション（40 分）として実施した。相撲について，スポーツ／興行面に焦点を当てて，競技としての見どころや本場所について，動画を交えながら，解説した。

動画は，NHK 制作の『Sumopedia』を活用した。

4.4.19 Third in-class test/Reading number in Japanese/Japanese greeting (3)

Third in-class test

第 13 回～第 18 回までの講義を範囲とした 3 回目の講義内テストを実施した。前回までの実施経験を踏まえて，試験時間を 30 分に短縮した。

Reading number in Japanese/Japanese greeting (3)

日本語による数字の読み方，日本でよく使う「お願いします」，「よろしくお願いします」を学習した。これらは，リーディングウィーク明けに実施することになる日本語による口頭発表の「日本語による自己紹介」においても使われるものである。

合わせて「日本語による自己紹介」の台詞と評価基準についての告知を行った。これは，リーディングウィークにおいて準備をしてもらうための措置であった。

第 20 回 Reading Week (1)

リーディングウィークにつき，休講である。

第21回　Reading Week (2)

リーディングウィークにつき，休講である。

4.4.22　Traditional Events and Songs in Japan/Phrase of self-introduction in Japanese

Songs in Japan

講義前に，Moodle上に「外国人視聴ランキングTop 50」のビデオをUPし，宿題として，その閲覧とそこで登場するJ-popミュージックに見出される特徴についての事前レポートを書くことを課した上で，この日は，J-popミュージックに見られる特徴についてのグループディスカッション（20分）を行い，グループでの発見を発表してもらった。その上で，日本の音楽シーンの特徴についての解説を行った。

J-popにおいては，同質的な振り付け，数多くのメンバー，カラフルな衣装，アニメへの楽曲提供といった商業上の特徴があり，音楽的には類似のコード進行を用いた楽曲，建築工学的で厚みのあるサウンド（隙間なく音が詰まったアレンジ，サウンド貧乏ともいう），メロディーの明快さ，高音ボーカルといった点が特徴となる。

Annual Events in Japan

日本の代表的な年間行事を，１月から順に紹介する。ここで取り上げた行事は，①正月，②節分，③バレンタインデー，④ホワイトデー，⑤ひな祭り，⑥花見，⑦こどもの日，⑧七夕，⑨お盆，⑩花火大会，⑪月見，⑫クリスマス，⑬大晦日である。伝統的な行事だけではなく，現代的な行事を取り上げたのは，これらが漫画やアニメで取り扱われることが多く，日本のポップカルチャーを理解する上で不可欠と考えたからである。

なお，この年間行事についての説明は，時間の制約から，この日には①～④までしか行えなかった。結果として，以降の第23回～第25回の中で，順次説明していくこととなった。

Phrase of self-introduction in Japanese

次回以降に実施する日本語による口頭発表のテーマとなる「日本語による自己紹介」のフレーズに関する練習を行った。

発表の順番も確定させて公表した。口頭発表は一度に行うのではなく（飽きを防ぐため），数回にまたがる形とした。発表順は，日本語クラスの履修者⇒第３回目のテストの点数順とした。

4.4.23　Sports culture in Japan/Self-introduction in Japanese (1)

Self-introduction in Japanese (1)

日本語による口頭発表として，自己紹介を実施した。各回８-10名で，交換教員，通訳者，学生による複合的な評価とした。所要時間は15分であった。

Sports culture in Japan

ここでは，日本のプロスポーツが野球とサッカーとバスケットボールであり，人気と競技レベルの向上の背景には，著名な漫画（サッカー⇒キャプテン翼，バスケットボール⇒スラムダンク）があることを解説した。

そして，プロスポーツの中でも，日本では野球が最も人気があり，その観戦／応援スタイルも独特であることから，これについて，講義で取り上げた。具体的には，楽器や道具（ミニバット）を使って皆で揃って応援する，選手個別の応援歌を皆で歌う，７回裏にジェット風船を皆で飛ばすなどの，同質的／画一的行動を好む日本人的な応援スタイルを紹介した。海外の人から見たときに，普段物静かな日本人が，球場では大騒ぎするというのは，非常に興味深いようである。

4.4.24　Kids, Education in Japan/Self-introduction in Japanese (2)

Self-introduction in Japanese (2)

冒頭 15 分を，10 名の学生の口頭発表に充当した。

Kids, Education in Japan

日本における親と子との距離感，日本の学校に見られる教育的特徴について説明した。

前者の親と子の距離感としては，親と子が同じ部屋で寝る傾向が強く，また相応の年齢まで，親子がお風呂にも一緒に入ることなどを紹介した（北米では，早くから子に部屋が与えられ，親子は別々の部屋で寝ることが一般的であり，お風呂も早い段階から別々に入る）。

また，後者の日本の学校の教育的特徴として，給食と掃除，運動会を取り上げた。これらについては，動画を用いて説明した。『Japanology Plus-Sports day』，『Japanology Plus-School Lunches』を利用した。

4.4.25　Housing in Japan/Self-introduction in Japanese (3)

Self-introduction in Japanese (3)

冒頭 15 分を，10 名の学生の口頭発表に充当した。

Housing in Japan

日本の家屋は西洋化が住んでおり，今やカナダの住居と大きな違いがない。カナダでも，住居に入る際には靴を脱ぐ習慣があり（玄関はないものの），これも日本独自のものではなくなっている。また，和室（畳の部屋）についても，レスブリッジには日加友好庭園があり，珍しいものではない。住居空間の狭さも，バンクーバーやトロントなどの大都市では起こりえる。そこでステレオタイプ的な日本の住居に関する説明は，紙資料と動画資料を Moodle 上に UP して参照してもらうこととした。

この回では，日本で標準的に利用されている高機能トイレに焦点を当てた講義とした。具体的には，タンクの上の手洗い場，暖かい便座，洗浄機，サウンドマスキング装置（音姫）について紹介した。また，個人の部屋が持ちにくい日本においては，トイレがパーソナルスペース（特に父親の）となることについても言及した。ここでは，『Japanology Plus-Toilets』を利用した。

4.4.26　Japanese working style/Fourth in-class test/Self-introduction in Japanese (4)

Self-introduction in Japanese (4)

冒頭15分を，日本語による自己紹介（9名）にあてた。

Fourth in-class test

第22回～第25回までの講義を範囲とした4回目の講義内テストを実施した。試験範囲が狭く，問題数が少なかったため，試験時間を20分に短縮して実施した。

Japanese working style

週当たりの勤務時間，超過労働を行う管理職の割合，休日数，女性の管理職の割合についての各国データを用いながら，日本人の労働状況について，概略的に見た。日本的な特徴としては，会社で女性が活躍していないこと，有給休暇の消化日数が少ない分が公的な祝日で補われていること，管理職がよく働いていることがあげられる。

その上で，いわゆる日本的経営として，終身雇用，年功序列，新卒一括採用についての解説を行った。これらの制度は，滅私奉公型の，江戸時代の武士のような会社員を作るための日本的な制度である。現在，これらの制度は，緩やかに崩壊しつつあるが，以前として日本企業を特徴づけるマネジメント手法であり，北米企業のマネジメント手法とは大きく異なる。

4.5　学生からの評価

4.5.1　学生にとって興味深かったコンテンツ

全4パートのうち，第7回から第25回までのコンテンツについて，興味深かったものを答えてもらったところ，学生の受けが良かったのは，下記のコンテンツであった。

2．伝統文化／思想	3．伝統芸能／現代アート	4．現代の日本人のライフスタイル
第7回　寺社	第13回　能・歌舞伎	第22回　年中行事
第9回　忍者	第14回　浮世絵・漫画・アニメ	第23回　J-pop
第10回　禅・茶道	第16回　日本料理	

カナダの学生にとって，視覚的に認識しやすいもの（動画利用できるもの），これまでに何かし

```
==================================================================================
Results Summary: Multiple Choice Responses
==================================================================================

                                 # 3------------.
                             # 2------------.   |   .----------4 #
                         # 1------------.   |   |   |   .--------->4 #
                                         |   |   |   |   |            # resp-.
1 Year of Study                          0   5   4   2   3                 14

                             # Minor--------.   .-Degree/GLER requireme #
                         # Major--------.   |   |   .---Interest #
                                         |   |   |   |                # resp-.
2 Why did you take this course?          0   2   5   7                     14

                             % Good---------.   .-Unsatisfactory %
                         % Excellent----.   |   |   .-------Poor %
                                         |   |   |   |                # resp-.
3 My effort in this course was          54  46   0   0                     13
5 The course planning and material      64  36   0   0                     14
   organization was

6 The textbooks and other learning      64  36   0   0                     14
   materials were
7 The instructor's punctuality was      93   7   0   0                     14
8 The instructor's availability to      57  43   0   0                     14
   students, including office hours
   or by appointment, was
9 The instructor's explanation of       71  29   0   0                     14
   grading criteria was
10 The instructor's delivery and        64  36   0   0                     14
   explanation of ideas and concepts
   were

11 The instructor's encouragement of    86  14   0   0                     14
   students' questions, discussions,
   and critical thinking was
12 The instructor's provision of        79  14   7   0                     14
   timely and useful feedback on
   materials covered was
14 The instructor's effort to make      86  14   0   0                     14
   the course as interesting as
   possible was
15 The instructor's effort to make      43  57   0   0                     14
   the course as challenging as
   possible was

16 The instructor's treatment of        86  14   0   0                     14
   students with respect and without
   prejudice was
17 This instructor overall was          86  14   0   0                     14
18 This course overall was              71  29   0   0                     14
```

図表 16　授業評価アンケートの結果

ら見たこと・経験したことがあるもの（忍者・茶道，漫画・アニメ，日本料理），自分たちの普段の生活と比較できるコンテンツ（年中行事，J-pop）が，彼らにとってもイメージ・理解しやすく，その内容が腑に落ちやすいのかもしれない。

4.5.2　授業評価アンケート

レスブリッジ大学では，授業評価アンケートが実施される。2018 年度は，履修者 38 名に対して 14 名の回答があった。図表 16 は，授業評価アンケートの結果である。

他の科目の評価状況が不明のため，この分布については何とも言えない。

4.5.3　学生の感想

適宜，講義に関する感想を取っているが，おおむね好意的な感想が多かった。

5．ま　と　め

2017 年度，2018 年度の授業について具体的なイメージがつかめるように記した。レスブリッジ大学側が求める授業内容は年々変化している。我々の年度では必ず入れてほしいと言われていた日本語教育の部分は，近年はあまり強く要求されていないと聞いている。個々の交換教授の専門領域が生かされ日本理解が進む授業内容であれば歓迎される。過去の授業内容を閲覧すると，日本の歴史，地理，文化など基本情報に加えて，東日本大震災などその時々の最新の社会情勢やアニメ，サブカルチャーなど受講する学生の興味や時勢に合わせた内容が盛り沢山で派遣された交換教授の皆さんの努力と工夫が垣間見える。

講義の記録はレスブリッジ大学の交換教授用研究室に紙面媒体と USB，CD などの電子媒体，及び Moodle 上で保管されている。日本の基本知識については過去のすぐれた教材を再利用しながら授業を組み立て，それに自らの専門領域を生かした日本紹介の授業を組み込むのがやりやすい方法かと思う。

この報告が 40 余年続いている教員交換プログラムの一助になれば幸いである。

参考資料：

University of Lethbridge Guidebook for Hokkai-Gakuen Visiting Professors, International Centre, University of Lethbridge, 2019.

宿舎前に出没した鹿（2018）

UofLeth Bus

UofLeth 構内トンネル 1

UofLeth 構内トンネル 2

資料１　2017 年度シラバス―講義担当者：上野之江

2017_Omar_final831

IDST 2008 Section A
Japanese Culture
Fall 2017
Faculty of Arts & Science

Lectures: Tuesday/Thursday, 12:15-13:30, UH C640
Instructor: Yukie Ueno, Visiting Professor from Hokkai-Gakuen University, Sapporo, Japan
E-mail: yukie.ueno@uleth.ca
Office: A840
Phone: 403-332-4665
Office Hours: Tuesday/Thursday 13:40-14:40
Textbook: No textbook required
Announcements/Other information: moodle.uleth.ca

Course description:
The course format will include two main topics: Japanese culture and its language. Each session includes weekly lectures and discussions, review questions, and practice of the Japanese language. In these sessions we will explore some historical and contemporary issues and topics related to life in Japan. The last 15-minute of each session will be devoted to learning the Japanese language since language is strongly related to its culture. Students will learn how to speak, listen, read, and write introductory Japanese as well as fundamental linguistic aspects of the Japanese language. In the four exams students will be asked about the content of the lectures and their Japanese language skills. At the end of the course students will perform a small skit in Japanese in groups (or independently). The skit will be a conversation which happens while travelling in Japan.

Course Assessment & Evaluation:
Test 1: 15% (Session 6, covering sessions 1-5)
Test 2: 25% (Session 14, covering sessions 7-13)
Test 3: 25% (Session 22, covering sessions 15-19)
Test 4: 10% (Session 27, covering sessions 22-26)
Oral Presentation in Japanese: 10%　(Session 23 & 26)
Homework : 15%
Total: 100%

Bonus mark: 2%. Asian Culture Day is held on November 7th and 8th. Students who attend one of the sessions other than the Sumo session (see the Proposed Course Schedule below) and answer a brief questionnaire you will get 2% as a bonus. More details will be provided later.

Grading: The table below will be used to convert percentages to letter grades.
Please note that the passing mark for IDST2008 is 50%.

A+	94-100	B+	82-85	C+	70-73	D+	58-61
A	90-93	B	78-81	C	66-69	D	50-57
A-	86-89	B-	74-77	C-	62-65	F	0-49

Please note that the passing mark for IDST 2008 is 50%

Class structure:
Each 75 min class will be divided into three sections:
a) Review: 5 min,
b) Lecture: 50 min,
c) Japanese language practice: 15 min.

Tests, Attendance, Homework and Participation:
***Tests*:** Tests comprise 75% of the final grade. Questions in the test may include multiple choice, matching, fill in the blanks, and short answer. All test will be will be paper-based.
Test 1 will take 30 minutes. **Test 2 and 3**, each of these tests will take 40 minutes. After each test students have a lecture or Japanese language practice. **Test 4** will take30 minutes and will be based on the contents of the skits performed in the Oral Presentation. Topics may include Japanese expressions, vocabulary, reading and writing in Japanese and the structure of the language. This test may also include some questions about the content of Sessions 23-26. After Test 4 students will watch a video on a Japanese culture.

Oral Presentation in Japanese: At the end of the course, students working individually or in groups of two or three will perform a skit or a short play in Japanese. Loudness of voice, intelligibility of the Japanese language, and fluency will be evaluated. The presentation topic will be the same for all students and it will be announced with enough time for students to prepare. This is 10% of the final grade.

***Attendance*:** Attend class each week. Class attendance will be recorded at the beginning of each session.

***Homework Completion*:** Working on a homework assignment each week. Homework is mainly for answering the questions on a previous lecture and Japanese language practice. Please complete the

homework and hand it in at the beginning of the next class. We will review the correct answers at the beginning of each class. The homework will be evaluated 15% of your grade.

Participating in class: Your participation can take the form of conversation with your classmates in response to discussion questions. You are also encouraged to answer questions directly in class, or even ask me questions yourself!

Proposed Course Schedule and Topics (Tentative):

(Thursday)	(Tuesday)
Session 1 (Sept 7) Introduction	Session 2 (Sep t12) Geography and History (1) Japanese greetings (1)
Session 3 (Sept 14) Geography and History (2) Japanese greetings (2)	Session 4 (Sept 19) Geography and History (3) Reading hiragana alphabets (1)
Session 5 (Sept 21) Geography and History (4) Reading hiragana alphabets (2)	Session 6 (Sept 26) **Test 1** Japanese Art-Ukiyoe-
Session 7 (Sept 28) Shrines and Temples Reading katakana alphabets	Session 8 (Oct 3) Tea Ceremony & Rikyu Writing hiragana alphabets (1)
Session 9 (Oct 5) Japanese Food -Washoku- Writing hiragana alphabets (2)	Session 10 (Oct 10) Japanese Traditional Food Writing your name
Session 11 (Oct 12) Japanese Performing Arts (1) Writing katakana alphabets (1)	Session 12 (Oct 17) Japanese Performing Arts (2) Writing katakana alphabets (2)
Session 13 (Oct19) Japanese Performing Arts (3) Listening to announcements (1)	Session 14 (Oct 24) **Test 2** Listening to announcements (2)
Session 15 (Oct 26) Japanese Manners Reading Japanese Sign (1)	Session 16 (Oct 31) Traditional Events in Japan Reading Japanese Sign (2)
Session 17 (Nov 2) Kids in Japan and Education Reading Numbers	Session 18 (Nov 7) Sumo This class will take place at the University Atrium as part of the Asia Culture Day. Attendance is mandatory.
Session 19 (Nov 9) Pop Culture –Anime, Anison- Telling Time	Session 20 (Nov1 4) Reading Week
Session 21 (Nov 16) Reading Week	Session 22 (Nov 21) **Test 3** Preparing for Oral Presentation
Session 23 (Nov 23) Oral Presentation (1) Linguistic features in Japanese (1)	Session 24 (Nov 28) Oral Presentation (2) Linguistic features in Japanese (2)
Session 25 (Nov 30) Oral Presentation (3) Earthquake and Tsunami	Session 26 (Dec 5) Oral Presentation (4)
Session 27 (Dec 7) **Test 4** Watching a video	

Other information:

- Attendance is mandatory.
- Late assignments will not be accepted. Alternate arrangements for the writing of exams, quizzes or tests or for presentations will only be made upon the presentation of a doctor's note.
- Failure to attend an exam or scheduled presentation will gain you a score of zero. In case of illness a medical certificate must be presented. Similarly, failure to hand in an assignment will gain you a mark on that assignment of zero, unless a medical certificate is presented.
- In case a student attending this class has a strong Japanese background or a good command of Japanese, he/she will be asked to write a brief lecture summary in English every week. In the language practice session the student will work as a model or an informant of the Japanese language.
-

(Words in Introduction)

Yukie Ueno, Hokkai Gakuen University

family crest, Weaning ceremony, 100days celebration

Canadian Course Committee

Sapporo, Hokkaido, Northern Island

47 prefectures,

Oodori Park おおどおり　こうえん

Student introductions

Watashi ha Joe desu.

わたしは　ジョーです。

2 year desu。　２ねんです。

Science major　です。

Prosody Tutor: Suzuki-kun

http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/eng/phrasing/index

<Homework Questions: Intro>

To be handed in at the beginning of Session 2

1. Write down two things you know about Japan.

2. How many prefectures are there in Japan?

3. What is the park downtown in Sapporo called?

4. How do you introduce your name in Japanese?

資料２　2018 年度シラバス：講義担当者―赤石篤紀

2018_Syllabus_AA

IDST 2008 Section A
Japanese Culture
Fall 2018
Faculty of Arts & Science

Lectures: Tuesday/Thursday, 12:15-13:30, AH 118
Instructor: Atsunori Akaishi, Visiting Professor from Hokkai-Gakuen University, Sapporo, Japan
E-mail: atsu.akaishi@uleth.ca
Office: A446 (in Indigenous Studies)
Phone: 403-332-4665
Office Hours: Tuesday/Thursday 13:40-14:40
Textbook: No textbook required
Announcements/Other information: moodle.uleth.ca

Course description:
The course format will include two main topics: Japanese culture and its language. Each session includes weekly lectures and discussions, review questions, and practice of the Japanese language. In these sessions we will explore some historical and contemporary issues and topics related to life in Japan. The last 20-minute of each session will be devoted to learning the Japanese language since language is strongly related to its culture. Students will learn how to speak, listen, read, and write introductory Japanese as well as fundamental linguistic aspects of the Japanese language. In the four exams students will be asked about the content of the lectures and their Japanese language skills. At the end of the course students will perform a small skit in Japanese in groups (or independently). The skit will be a conversation which happens while meeting for first time in Japan.

Course Assessment & Evaluation:
Test 1: 15% (Session 6, covering sessions 1-5)
Test 2: 20% (Session 12, covering sessions 6-11)
Test 3: 20% (Session 19, covering sessions 12-18)
Test 4: 15% (Session 27, covering sessions 22-26)
Oral Presentation in Japanese: 10% (Session 25 & 26)
Class Participation (Attendance, Homework) :20%
Total: 100%

Bonus mark: 2%. International Education Week will be held between November 5th and 8th. Students who attend one of the sessions other than the mandatory Sumo session (see the Proposed Course Schedule below) and answer a brief questionnaire will get 2% as a bonus. On the day of the session, you must participate in the entire session, sign the attendance sheet and indicate for which class you are seeking a bonus mark. More details will be provided later.

Grading: The table below will be used to convert percentages to letter grades.
Please note that the passing mark for IDST2008 is 50%.

A+	94-100	B+	82-85	C+	70-73	D+	58-61
A	90-93	B	78-81	C	66-69	D	50-57
A-	86-89	B-	74-77	C-	62-65	F	0-49

Please note that the passing mark for IDST 2008 is 50%

Class structure:
Each 75 min class will be divided into three sections:
a) Review: 5 min,
b) Lecture: 50 min,
c) Japanese language practice: 20 min.

Tests, Attendance, Homework:
Tests: Tests comprise 70% of the final grade. Questions in the test may include multiple choice, matching, fill in the blanks, and short answer. All test will be will be paper-based. Each of these tests will take 40 minutes. After each test students have a lecture or Japanese language practice.

Oral Presentation in Japanese: At the end of the course, students working individually or in groups of two or three will perform a skit or a short play in Japanese. Loudness of voice, intelligibility of the Japanese language, and fluency will be evaluated. The presentation topic will be self-introduction and be the same for all students. This is 10% of the final grade.

Attendance: Attending class each week is mandatory. Class attendance will be recorded at the beginning of each session and will comprise 5% of your grade. If for a serious reason you must miss a class, please contact me in advance if possible (ex. by e-mail). Bear in mind that any unexcused absence (without a medical note) will result in a penalty of 1% per absence.

***Homework Completion*:** Homework will be assigned and evaluated each week. Homework is mainly for answering the questions on a previous lecture and Japanese language practice. Please complete the homework and hand it in at the beginning of the next class. We will review the correct answers at the beginning of each class. The homework will comprise 15% of your grade. Late homework will not be accepted without a written medical excuse.

Participating in class: Your participation can take the form of conversation with your classmates in response to discussion questions. You are also encouraged to answer questions directly in class, or even ask me questions yourself!

Proposed Course Schedule and Topics (Tentative):

(Thursday)	(Tuesday)
Session 1 (Sept 6) Introduction	Session 2 (Sept 11) Geography, Nature and Climate Japanese greetings (1)
Session 3 (Sept 13) Geography and History Japanese greetings (2)	Session 4 (Sept 18) History -Religion and Ideology- Reading hiragana alphabets (1)
Session 5 (Sept 20) History -Characters and Words- Reading hiragana alphabets (2)	Session 6 (Sept 25) **First in class test** Reading katakana alphabets(1)
Session 7 (Sept 27) Shrines and Temples Reading katakana alphabets(2)	Session 8 (Oct 2) Samurai warrior and Japanese castle Writing katakana alphabets (1)
Session 9 (Oct 4) Ninja Making origami (1)	Session 10 (Oct 9) Zen and Tea Ceremony Writing katakana alphabets(2)
Session 11 (Oct 11) Bushido(which means Samurai philosophy) Writing hiragana alphabets (1)	Session 12 (Oct 16) **Second in class test** Writing hiragana alphabets(2)
Session 13 (Oct18) Japanese Performing Arts (1)- Kabuki and Noh Writing name in Japanese	Session 14 (Oct 23) Japanese Performing Arts (2)- Ukiyoe, Manga and Animation Kanji(Chinese characters) in Japanese(1)
Session 15 (Oct 25) Japanese Performing Arts (3) -Statues, Figures and craftsmanship Making Origami(2)	Session 16 (Oct 30) Japanese Traditional Food Kanji(Chinese characters) in Japanese(2)
Session 17 (Nov 1) How to give names to children in Japan Writing your name in Kanji	Session 18 (Nov 6) Sumo This class will take place at the University Atrium as part of the International Education Week. Attendance is mandatory.
Session 19 (Nov 8) **Third in class test** Reading number in Japanese Japanese greeting(3)	Session 20 (Nov13)　Reading Week
Session 21 (Nov 15)　Reading Week	Session 22 (Nov 20) Traditional Events and Songs in Japan Phrase of self-introduction in Japanese
Session 23 (Nov 22) Sports culture in Japan Self-introduction in Japanese(1)	Session 24 (Nov 27) Kids, Education in Japan Self-introduction in Japanese(2)
Session 25 (Nov 29) Housing in Japan and Manners Self-introduction in Japanese(3)	Session 26 (Dec 4) **Fourth in class test** Japanese companies and work style Self-introduction in Japanese(4)

Other information:

- Failure to attend an exam or scheduled presentation will gain you a score of zero. In case of illness a medical certificate must be presented. Similarly, failure to hand in an assignment will gain you a mark on that assignment of zero, unless a medical certificate is presented.
- If a student attending this class has a strong Japanese background or a good command of Japanese, he/she will be asked to write a brief lecture summary in English every week. In the language practice session the student will work as a model or an informant of the Japanese language.
- All students are subject to the student discipline policy for academic and non-academic offenses in accordance with the University of Lethbridge calendar. Academic dishonesty will not be tolerated and will result in a mark of zero for the assignment, and may result in further University sanctions.